



過去事例を引用した警戒の呼びかけを改善

防災気象情報の伝え方の改善

～「過去事例を引用した警戒の呼びかけ」～

「自らの命は自らが守る」社会を支える取組

奈良地方気象台



過去事例を引用した警戒の呼びかけを改善

- 気象台では大きな災害の発生が予想されるような気象状況となった時、過去の災害を引用して警戒を呼びかけています。
- 奈良県南部で短期間で1000mmに達するような大雨となる予想がある場合は、平成23年の台風第12号による「紀伊半島大水害」を引用することとしました。
- 全く同じ気象状況が起こることはありませんが、過去にあった大災害時に近い雨量が予想され、重大な災害が差し迫っていることを認識して、情報の収集と「自らの命は自らで守る」ための速やかな避難行動につなげてください。

過去事例引用例（平成23年台風第12号引用）

府県気象情報（例）

令和〇年 台風第●号に関する奈良県気象情報 第△号 令和〇年9月〇日06時00分 奈良地方気象台発表

（見出し）

非常に強い台風第●号が、〇日昼前から夕方にかけて奈良県に最も接近する見込みで、平成23年台風第12号に匹敵する記録的な大雨となるおそれがあります。土砂災害に厳重に警戒し、浸水害、河川の増水や氾濫にも警戒してください

記者会見資料（例）

（参考）平成23年台風第12号（2011年）8月30日～9月5日

- ▶ 南部を中心に記録的な大雨となった。総雨量は上北山で1,814.5ミリ、風屋で1,360.0ミリに達し、県内の6地点で500ミリを超えた。なお、上北山の1,814.5ミリは、同観測点の年間降水量の平均値2,713.5ミリの3分の2に相当する雨がたった7日間で降ったことになる。
- ▶ 奈良県では深層崩壊など大規模な土砂災害が多数発生、河道閉塞による氾濫も発生し大きな被害となった。

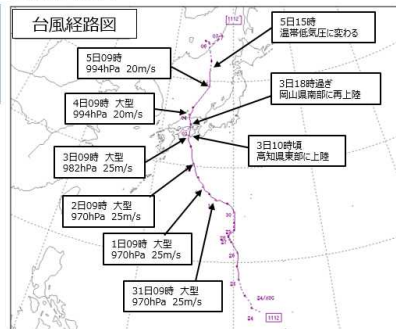
奈良県の被害の状況

死者15名、行方不明者9名、住家全壊49棟、住家半壊71棟、住家一部損壊14棟、床上浸水13棟、床下浸水37棟
※ 消防庁ホームページ「災害情報一覧」より

当時の降水量（平成23年8月30日～9月5日の期間合計値）

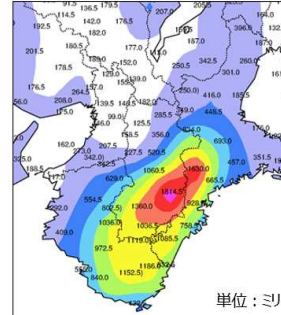
順位	市町村	地点	期間合計値 (ミリ)
1	上北山村	上北山	1814.5
2	十津川村	風屋	1360.0
3	天川村	天川	1060.5
4	十津川村	玉置山	1036.5
5	曽雨村	曽雨	834.0

台風経路図



（参考）平成23年台風第12号（2011年）8月30日～9月5日

降水量（平成23年8月30日～9月5日の期間合計値）



奈良県の被害状況



災害現場写真



1は、期間中に欠測があり資料不足であるが、少なくともこれ以上の降水があったことは確実な値。
1は、統計資料の集積地が詳細図で欠けているが、上位の階級を用いる際は一部の例外を除いて正確値と同等に扱う。



平成23年（2011年）台風第12号

（紀伊半島大水害）

被害概要説明資料



長期間にわたる記録的な大雨 (紀伊半島大水害) (床上・床下浸水、河川氾濫、土砂災害多数発生、河道閉塞 特別警報導入の契機となる災害)

【概要】

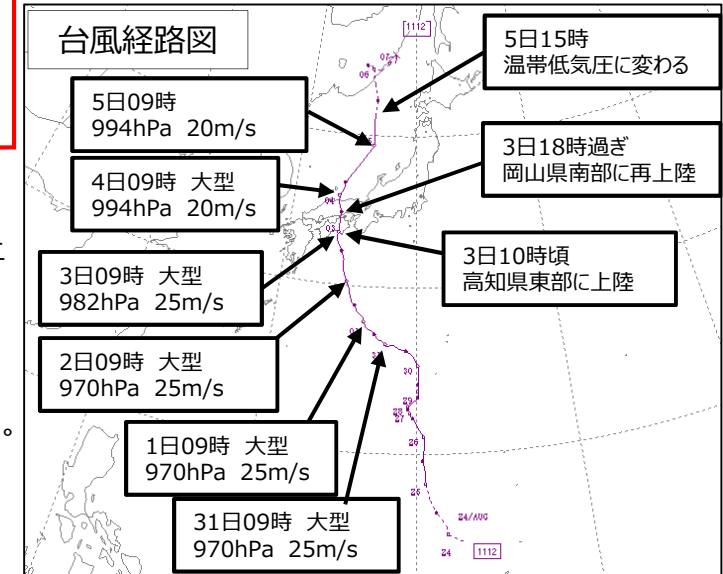
8月25日9時に発生した台風第12号は、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、9月2日に四国地方に接近、3日10時頃に高知県東部に上陸、18時過ぎに岡山県南部に再上陸した。その後、4日未明に山陰沖に進んだ。

台風が大型で動きが遅かったため、長期間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。

8月30日から9月5日までの総降水量は、紀伊半島を中心に広い範囲で1000ミリを超えた。

また、西日本の太平洋側を中心に非常に強い風が吹き、海上では大しけとなり、沿岸では高潮となった。

この台風により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫が多数発生し、近畿地方での死者は72名、行方不明者14名となった。また、和歌山県や奈良県内では豪雨に伴う山崩れにより河道閉塞(天然ダム)が生じた。

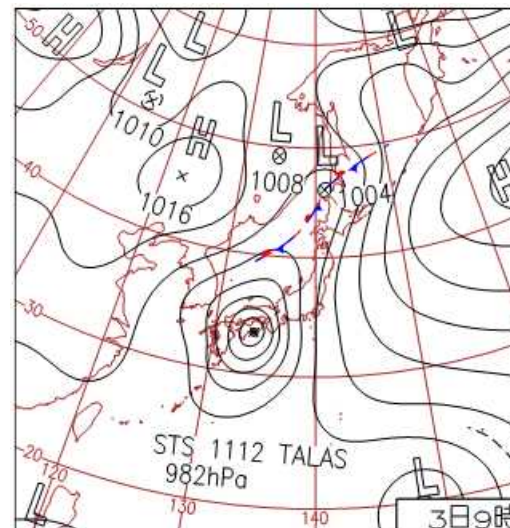


台風強さの階級分け

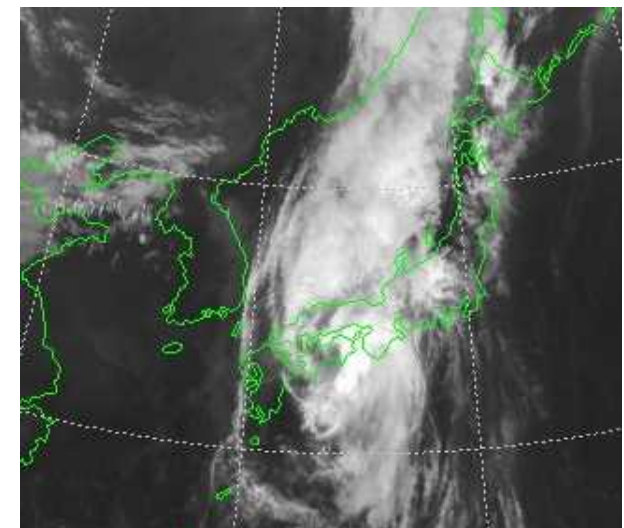
階級	最大風速
強い	33m/s (64ノット) 以上～44m/s (85ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85ノット) 以上～54m/s (105ノット) 未満
猛烈な	54m/s (105ノット) 以上

台風大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型 (大きい)	500km以上～800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上



地上天気図
平成23年9月3日09時



衛星赤外面像
平成23年9月3日09時



- 奈良県内では南部を中心に記録的な大雨となった。総雨量は上北山で1,814.5ミリ、風屋で1,360.0ミリに達し、県内の6地点で500ミリを超えた。なお、上北山の1,814.5ミリは、同観測点の年間降水量の平年値2,713.5ミリの3分の2に相当する雨がたった7日間で降ったことになる。
- 奈良県では深層崩壊など大規模な土砂災害が多数発生、河道閉塞による氾濫も発生し甚大な被害となった。

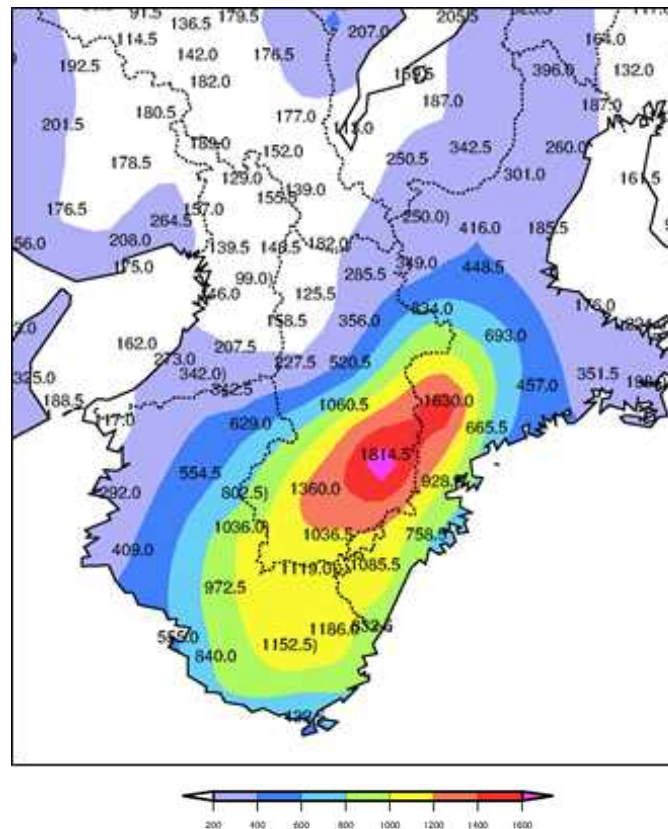
奈良県の被害の状況

死者15名、行方不明者9名、住家全壊49棟、住家半壊71棟、住家一部損壊14棟、床上浸水13棟、床下浸水37棟
 ※ 消防庁ホームページ「災害情報一覧」より

当時の降水量 (平成23年8月30日～9月5日の期間合計値)

順位	市町村	地点	期間合計値 (ミリ)
1	上北山村	上北山	1814.5
2	十津川村	風屋	1360.0
3	天川村	天川	1060.5
4	十津川村	玉置山	1036.5
5	曽爾村	曽爾	834.0

降水量 (平成23年8月30～9月5日の期間合計値)



〕は、期間中に欠測があり資料不足であるが、少なくともこれ以上の降水があったことは確実な値。
)は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値と同等に扱う値。

災害現場写真



※写真はすべて気象庁職員撮影